



2024年6月5日

証券アナリスト向け IR ミーティング(2024年9月期上半期決算説明会) 質疑応答要旨

質問1：2024年9月期・上半期において、電池材料などを含む電子材料関連の受注高が減少している要因は？

回答1：足元の電池材料向け案件の引合い傾向として、1～2億円規模の中小型案件よりも、5～10億円規模の大型案件が増えている。この上半期も複数の大型案件引合いをいただいたが成約には至らず、前年同期比で受注高は減少となった。

質問2：電池材料向けの引合いが大型化している傾向は、ホソカワミクロンにとってメリットとなるか？

回答2：案件の大型化は、ハイリスク・ハイリターンだと考えている。受注すれば業績に大きく貢献するが、一方で、企画・立案を含む商談に相応の人員リソースを割くことになり、失注時のリスクは大きい。

質問3：プラスチック薄膜関連事業の受注高が増加した要因は、大型案件の受注獲得とのことだが、下半期以降も大型案件の引合いは続くか？

回答3：プラスチック薄膜関連事業に関しては、今年度計画の策定段階では、受注高の減衰を予想していた。しかし、上半期の実績を踏まえて、当初想定よりは落ち込まないだろうと見立てを変えている。

一方で、当事業の収益性改善のため構造改革を進めており、損益分岐点売上高を10～20億円下げることを目指している。

質問4：修正された通期予想を見ると、下半期の売上高は上方修正ながら、利益は据え置いている。利益を上方修正できなかった要因は？

回答4：売上の進行に対して、利益が計上されるタイミングが案件によって異なるため、売上が伸びても利益が同じようには伸びて来ないことがある。受注残高の内容を見ると、第3四半期に採算性の悪い案件の利益計上が集中する見通しであり、利益の上



方修正は行わなかった。

質問5：資料7ページに、分野・業種別の受注高状況があるが、国や地域によって強い分野などはあるか？

回答5：医薬や食品分野は欧米が比較的強く、化学や電子材料分野は日本が強いといった傾向がある。

以上